

学校の成績や偏差値を飛躍的に向上させるにはどうしたらよいか

- 同じ教材やテストを6回以上繰り返してやり直すことが最も効果的 -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

「学校の成績や偏差値を飛躍的に向上させるにはどうしたらよいか」というのが、放送をお聴きの皆さん、受験生の皆さん、児童・生徒・学生の皆さん、先生方の最大のテーマではないかと思いません。

それに対する私の答えは、「同じ教材やテストを6回以上繰り返してやり直すことが最も効果的である」です。教科書や副教材、一度やったテストなど既に授業などで学習したものを6回以上やり直すのが、学校成績や各種テストなどの偏差値を上げるのに最も効果的なやり方であると私は信じて疑いません。

2. 宇都宮大学国際学部の客員教授であられ、また、オマーンやネパールの大使を務められた神長善次先生に、「同じ本を何回ぐらい読んだらよいか」質問させていただいたことがあります。すると、即時に「林君、それは6回以上だよ」という答えが返ってきました。難しい内容の本は、1～2回読んだだけではなかなか「うん、なるほど」と理解できることは少なく、書いてあることを少しづつ身に付けたり参考にしながら自分の力でものごとを考えたりするためには6回以上読まなければいけないよということでした。それ以来、私も、本は6回以上読まなければいけないと肝に銘じています。

3. 勉強についても同じことがいえます。さまざまな方がさまざまな勉強方法でものごとを身に付けようと努力をされています。天才と呼ばれる方は別かもしれませんが、普通の方が「うん、なるほど」と「理解」した内容を確実に身に付ける、つまり「定着」させるためには、最低でも6回は繰り返して勉強することが求められるのではないかと思います。

4. 6回の中に、一度理解した内容を声に出して読む「音読練習」、書けない単語・語句を書いて覚える「書き取り練習」、簡単な計算・問題は見た瞬間に答えが出るまでにする「計算・問題練習」を組み合わせると、さらに着実な結果を出すことができます。

- 5 . この放送をお聴きの皆さんの中で「学校の成績を上げるにはどうしたらよいか」「偏差値を入学試験に合格できるまで上げるにはどうしたらよいか」を考えている方は、神長善次先生の本の読み方と同様の 6 回以上を肝に銘じて、「学校の教科書・参考書・問題集・過去問(既に一度出題された問題)などを6回以上やり直すとよい」と思います。
- 6 . 開倫塾の冬期講習は 1600 名ぐらいの中 3 生の皆さんに受講していただきました。そこで先日、各校舎の先生方と「どのようにしたら偏差値を上げられるか」という勉強会を行いました。塾生の皆さんの偏差値を確実に上げている校舎の先生方からは、「過去問を 6 回ぐらい繰り返し繰り返しやってもらった」ところ偏差値が飛躍的に上がったという発表がありました。ですから、受験生の皆さんは、入学試験当日の問題用紙が配付される直前まで 6 回以上の繰り返し勉強を続けていただきたいと思います。
- 7 . 受験学年ではない中 1・中 2・高 1・高 2 の皆さんも、2 月中旬から 3 月上旬にかけて実施される学年末テストに向けて、上記の方法で勉強することをお勧めします。1 か月あるいはそれ以上ありますので、「教科書と授業で取ったノート・問題集などを最低でも6回は勉強してよい点数を取る」ことを目指していただきたいと思います。
- 8 . 「練習は不可能を可能にする」という言葉があります。これは、慶應義塾大学の昔の塾長であられた小泉信三先生がおっしゃった言葉です。この言葉を噛み締めながら勉強し、受験生は自分の行きたい高校や大学などに進学していただきたいと思います。また、受験学年でない皆さんは学年末テストで 100 点を取っていただきたいと思います。
- 9 . 「練習は不可能を可能にする」。これは、とてもよい言葉ですね。人間関係がたくさんありますので、人生では努力が報われることは少ないです。しかし、「定期テストや入学試験では努力が報われます。敵は己ですから、歯をくいしばって同じ教科書・問題集・参考書などを 6 回繰り返し繰り返し勉強すること」を提案させていただきます。
- 10 . 放送をお聴きのお父さん・お母さん・おじいさん・おばあさん・親戚にお子さんのいらっしゃる方などは、このような勉強方法があることをお子さんたちにぜひ伝えていただきたいと思います。
- 11 . さらに難しい司法試験や公認会計士試験、税理士試験、医師の国家試験、看護師試験などありとあらゆる試験、また、自動車免許取得の試験などにも同じテキストを繰り返し勉強するやり方は有効です。合い言葉は「6 回」ですよ。

12. 「大切な大切な本を読む場合も 6 回ぐらい読むとよい」と思います。私は、年末から 1 月にかけて正岡子規の本をたくさん読みました。正岡子規の本は難しくて 1 回ではなかなか理解できないのですが、2 回 3 回と読んでいくうちに少しずつわかるようになり、5 ~ 6 回読むと子規の考えたこと・感じたことが何となくとらえられるようになりした。神長善次先生の「林君、それは 6 回以上だよ」という言葉の正しさが実感できたように思いました。

皆様はどのようにお考えでしょうか。

- 2010 年 7 月 18 日 林 明夫記 -